

事例紹介 1 京都大学開催 国際シンポジウム「再生可能エネルギーが開く未来 ～欧州の経験と日本の挑戦～」

アマタ株式会社が運営する京丹後循環資源製造所では、バイオガスで発電された電力を、「グリーン電力証書」として販売しております。2012年5月12日（土）に、京都大学で開催された国際シンポジウム「再生可能エネルギーが開く未来～欧州の経験と日本の挑戦～」では、当日会場で使用する照明等の電力と、配布資料印刷に使用した電力が、「グリーン電力」でまかなわれました。

イベント概要

名称：「再生可能エネルギーが開く未来～欧州の経験と日本の挑戦～」

日付：2012年5月12日（土）

主催：京都大学

経済研究所 先端政策分析研究センター

供給電力：466kwh



ドイツとデンマークからゲストをお招きし、エネルギー政策のこれまでの経過と、今後の展開について講演があり、また日本国内の取り組みについても国や地方自治体の事例が紹介されました。

イベントでのグリーン電力の説明

グリーン電力の使用については、開会時にご説明いただき、配布資料に下記のような記載がされていました。



使用電力はグリーン電力でまかっています。

本シンポジウムにおいて、会場使用及び資料印刷に使用した電力の一部(466kWh)は、グリーン電力でまかわれています。このグリーン電力は、アマタ株式会社が運営する京丹後市エコエネルギーセンターのバイオマス発電施設によるものです。

今後の展開について

再生可能エネルギーの未来を考える意義深いシンポジウムあり、このような機会に、グリーン電力をご利用いただけたことを大変ありがたく思います。アマタでは今後もより多くのお客様に、グリーン電力をご活用いただけるよう取り組んでいきたいと思ひます。

文責：アマタ株式会社 総合環境ソリューション営業グループ

西近畿営業チーム チームリーダー 末次貴英（所属は2013年11月現在のもの）